

# 令和3年度「自律した英語学習者育成プロジェクト事業」

## 報告書 (A高校)

### 1 令和2年度入学生の指導に係る全体計画 **Plan**

※ 3年間を見据えた指導計画及び生徒に身に付けさせたい力を、CAN-DOリストを踏まえて4技能の観点から記述する。

技能	1年	2年	3年
Reading	(指導計画) 教科書本文を用い、概要や要点を捉えることができるよう指導する。 (力) まとまりのある英文において、未知の語句の意味を推測しながら理解することができる。	(指導計画) 説明文や物語文を用い、必要な情報を得ることができるよう指導する。 (力) まとまった量の英文において、概要を把握しながら理解することができる。	(指導計画) 説明、評論、物語などについて、目的に応じた読み方ができるよう指導する。 (力) まとまった量の英文において、未知の語を推測しながら概要を把握することができる。
Listening	(指導計画) 英語表現の1時間をリスニングに特化した授業を行い、ALTのAll Englishの授業やリスニング教材で指導を強化する。 (力) 教科書レベルの内容やネイティブスピーカーの発話をゆっくりはっきりとした発音であれば理解できる。	(指導計画) 英語を聞きながらメモを取るなどして、内容の大筋を理解できるよう指導する。 (力) メモを用いて日常的な話題や簡単な説明の内容を理解することができる。	(指導計画) 外部試験に類似した内容や英語のニュースなどを聞き、内容を把握することができるよう指導する。 (力) 複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、情報を整理しながら理解することができる。
Speaking	(指導計画) 音読練習や本文のリテリング、また自分のお気に入りの事柄についてのプレゼンテーション等の言語活動を通して、英語で意見を述べるよう指導する。 (力) 教科書の内容や身近な話題について自分の意見を述べるができる。	(指導計画) 読んだり聞いたりした内容について、自分の言葉で話すことができるよう指導する。 (力) 与えられた話題について、自分の意見を入れながらスピーチをすることができる。	(指導計画) ディベートなどの機会を通して自分の考えに基づき、相手と対話することができるよう指導する。 (力) 読んだり聞いたりした内容について即興で要約したり、自分の意見を述べたりすることができる。
Writing	(指導計画) 身近な事柄について、3～5行程度の英文を書くことができるよう指導する。 (力) 既習の語彙、表現を用いて教科書レベルの内容の英文を書くことができる。	(指導計画) 興味のある社会的な事柄について、5～8行程度の英文を論理的に書くことができるよう指導する。 (力) 既習の語彙、表現を生かして、自分の考えを英語で表すことができる。	(指導計画) 日本語特有の言い回しを含んだ表現について、既習事項を用いて表すことができるよう指導する。 (力) 社会性のある話題について論理的な文章を即興で書くことができる。

2 試験結果を踏まえた（１）現状分析、（２）重点課題、（３）重点課題の克服に向けた実践（指導と評価の工夫） **Do**

技能	（１）現状分析	（２）重点課題
	（３）①実践（指導の工夫）	（３）②実践（評価の工夫）
Reading	（１）平均 WPM が 69.5 であり、リーディングスコアは全国平均をやや上回っている。概要を把握することはできるが、論理構成や因果関係を意識して読む力に欠ける。	（２）英文を読むスピードが極端に遅いことから、長文読解において解答時間が不足している。一定時間で正確に英文を読み取り、迅速に設問に解答する力を育成する。
	（３）① ・パワーポイントを活用した授業を行い、制限時間を意識した授業を展開した。 ・Rapid-reading や Intensive-reading など、音読、黙読双方学習進度に応じた読解問題や英問英答を実施した。	（３）② ・授業において発問の形式を工夫することによって、知識、理解を評価した。 ・週末課題や朝学習で、授業で学んだことの習熟度をその都度確認し、課題への取り組みで主体性を評価した。
Listening	（１）全国平均をやや上回るリスニングスコアである。概要は把握することができるが、情報処理の正確さとスピードに欠ける。	（２）内容の展開や発展についていきながら会話や話を聞く力を養う。また、紛らわしい情報に惑わされずに正確に情報を聞き取る必要がある。
	（３）① ・Communication English の授業においては、All English の授業を展開した。 ・パワーポイントを用いて、様々なスピードの英文を聞き、また様々な形態の音読練習に取り組んだ。 ・リスニングのテキストを用いて実践的な演習を取り入れ、苦手分野を分析した。	（３）② ・授業や定期考査で共通テスト形式のリスニングテストを実施し、評価した。 ・All English のグループワークを取り入れて、主体性を評価した。
Speaking	（１）全国平均を下回る表現力である。即興性と表現力に欠ける。語彙力不足に加え、それらを文として組み合わせる能力の欠如が一因である。	（２）日本語を反射的にそのまま英語に直そうとする傾向があるため、不自然な英文となることが多い。日本語と英語の構造や考え方を意識させ、授業で学んだ英語の表現を積極的に活用させる必要がある。
	（３）① ・パフォーマンステストを実施した。 1 学期：4～5 人のグループで世界の偉人一人を、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行った。 3 学期：4～5 人のグループで、SDGs の 17 の項目から 1 つ選び、Google Slide を用いてプレゼンテーションを行った。	（３）② ・プレゼンテーションの準備における英作文の添削を十分に行った上で、自信を持って英語を話す姿勢を評価した。 ・3 学期のパフォーマンステストでは、Google Forms を用いて生徒一人一人がグループのパフォーマンスを評価し、その場で評価を提示することができた。
Writing	（１）全国平均を若干上回るライティングスコアであるが、基本的な文法の間違が多く見受けられる。文章として英文を論理的に書く力が求められる。	（２）日本語を反射的にそのまま英語に直そうとする傾向がある。日本語と英語の構造や考え方を意識させ、授業で学んだ英語の表現を積極的に活用させる必要がある。
	（３）① ・Retelling を全ての単元で実施した。 ・パフォーマンステストを実施した。 2 学期：4～5 人のグループで、1 lesson の起承転結を Retelling する英作文をさせ、グループ内で添削し、提出させた。	（３）② ・教科書本文の Retelling やプレゼンテーション原稿の英作文の添削を効果的に行い、最終原稿を評価した。 ・定期考査において、自由英作文においても内容だけでなく、授業で学んだ表現を積極的に用いているかも評価した。

### 3 実践の検証 **Check** 及び改善案 **Act**

※ 検証については、各年次3月までの実践について、全体計画及びCAN-DOリストを踏まえながら行い、検証の結果（評価）を記述する。

※ 改善案については、各年次以降の指導と評価に向けて、全体計画、CAN-DOリスト、これまでの実践、検証を踏まえて記述する。

技能	実践の検証	改善案
Reading	① スピードを徐々に上げる音読を重ね、正しい読み方に加え、誤った表現に対して感覚的に違和感を覚えることができるようになった。WPMは72程度まで上昇した。	① 迅速かつ正確に内容を把握する能力を養うため、速読と精読の適切なバランスを保った指導が必要である。
	② パワーポイントのスライドを用いて、All Englishで授業を行うことにより、多角的に内容の定着を図ることができた。	② 読解の中でインプットしたことを、アウトプットにつなげられるような活動を今後増やすことにより、学習の定着を促す必要がある。
Listening	① Readingでの音読を強化することにより、既習の英語に関しては、TF問題など、細かい表現の違いも正確に聞き取ることができるようになった。	① 教科書の音読だけでなく、実際にListening問題で流れてくるスクリプトを自分たちで音読することにより、Listeningの力を伸ばす必要がある。
	② 英語を聞き取る力と同時に、グラフの読み取りや状況判断など、問題種別に解答の導き方を理解することができるようになった。	② 長い英文を聞き取る力が特に不足している。今後はSpeaking活動の中で、Listeningにも意識していく必要がある。
Speaking	① 事前に原稿を添削することにより、生徒が自信を持ってSpeakingの活動に臨むことができた。	① パフォーマンステストにおいては、既習事項のアウトプットであることを意識し、文法や表現の活用に重点を置き、さらに学年の共通理解のもと評価につなげる必要がある。
	② 言語だけでなく、ジェスチャーやslideなど、相手に伝えるための工夫を意欲的に行い、CommunicationのためのSpeakingを行うことができていた。	② パフォーマンスの評価を、生徒自身でフィードバックできるような次の活動を工夫する必要がある。
Writing	① 単調な表現だけでなく、英語表現の授業で学んだ接続詞や構文など、同じ内容でもより伝わりやす英語を工夫して用いようとする姿勢が見られるようになった。	① 英語表現だけでなく、コミュニケーション英語の授業においても、学んだ英語をアウトプットする機会を多く設けて、さらに定着を促す必要がある。
	② Retellingの活動においては、長文を要約する入試問題を想定し、逆説や例示など、様々なパターンの英語の構成を学び、間違いを恐れず積極的に活用していた。	② 問題演習に偏ることなく、実際の入試問題に触れながら、学んだことをどのように実践に生かしていくかを学ぶことができるような授業展開も必要である。

